

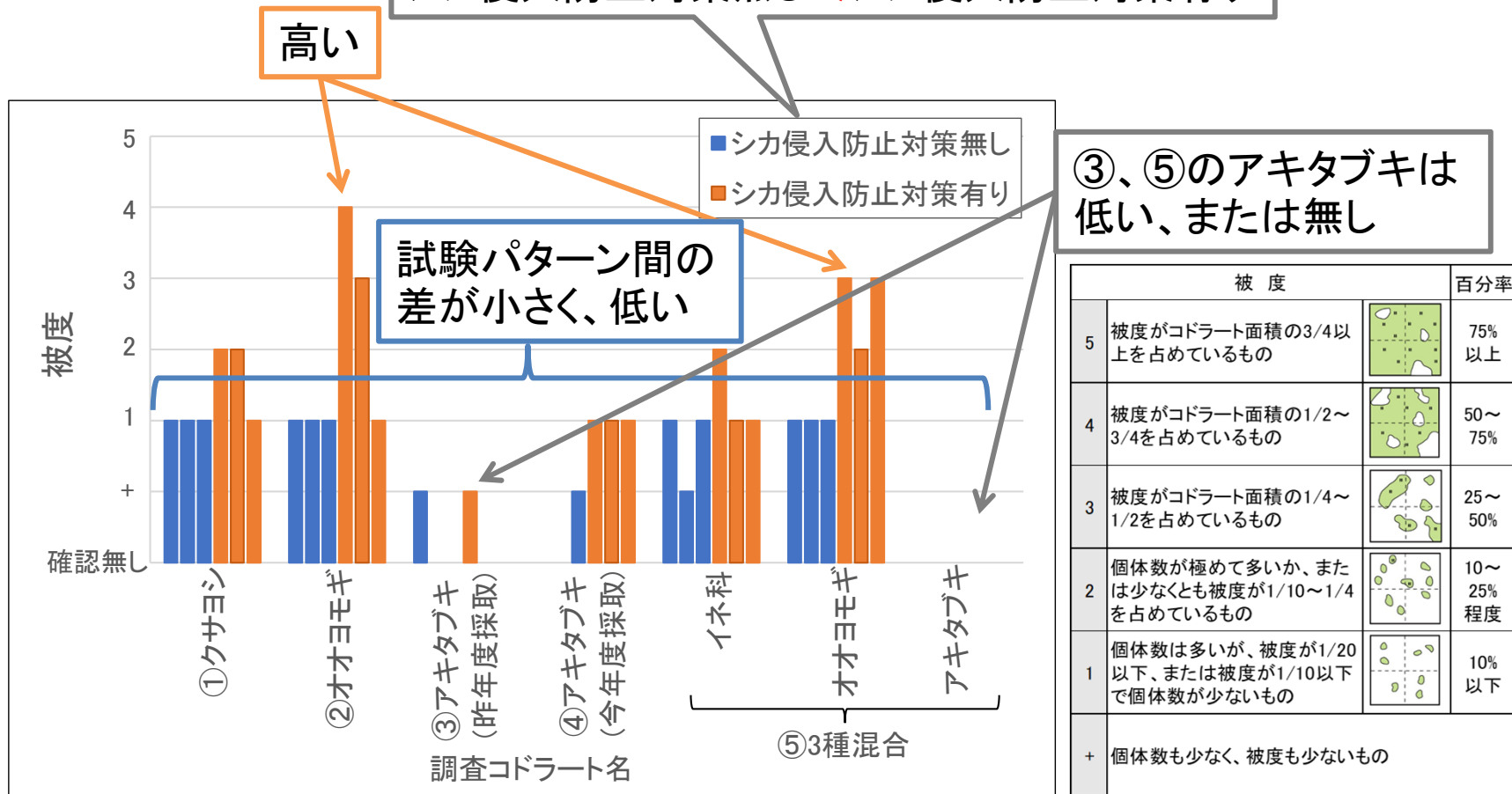
令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

2.在来種の現地播種調査

対象種※1の被度

※1 対象種=各コドラートに播種した種
※2 9月調査の結果を最終状況として比較した

シカ侵入防止対策無し < シカ侵入防止対策有り



2.在来種の現地播種調査

対象種※の個体数 ※対象種＝各コドラートに播種した種

- ・シカ侵入防止対策無しより、シカ侵入防止対策有りのほうが多かった
- ・シカ侵入防止対策無し・有りとともに、クサヨシとオオヨモギが多い傾向があり、アキタブキは少ないか、個体が出現しなかった

シカ侵入防止対策無し



①クサヨシ

②オオヨモギ



③アキタブキ(今年度採取)

⑤3種混合

シカ侵入防止対策有り



①クサヨシ

②オオヨモギ



③アキタブキ(今年度採取)

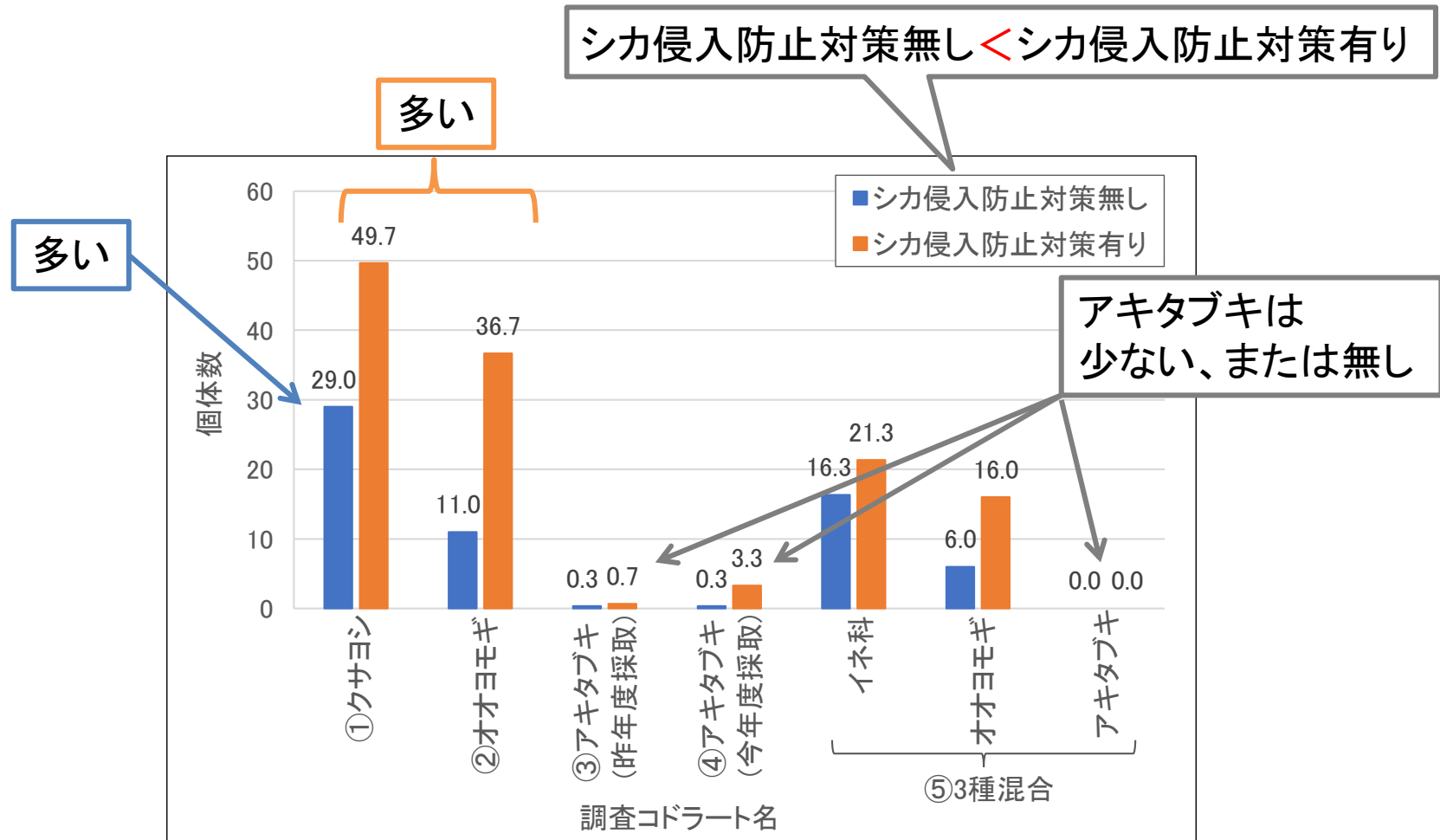
⑤3種混合

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

2.在来種の現地播種調査

対象種※の個体数

※1 対象種=各コドラートに播種した種
※2 9月調査の結果を最終状況として比較した



環境調査(植物)の中間報告

1. 外来種侵入状況調査

- ・23種の外来種を確認した。昨年度から種の入替わりはあったが、外来種数の大きな増加傾向は認められなかった。
- ・アメリカオニアザミは、昨年度に引き続き著しく増加した。
- ・エゾシカの不嗜好性植物とされるアメリカオニアザミやトモエソウ、ハンゴンソウなどの被度・群度が高い傾向があった。
- ・次回WSで、具体的な数値等について整理し報告する。

2. 在来種の現地播種調査

- ・対象3種のみでコドラート全体を覆うほど植生は回復しなかった。
- ・対象3種の被度はオオヨモギで最も高く、個体数はクサヨシで最も多かった。
- ・アキタブキは被度・個体数が低く、出現しないコドラートも多かった。
- ・シカ侵入防止対策無しでは、エゾシカの食害により、全体の植被率・対象種の被度が低く、対象種の個体数が少なかった。
- ・次回WSで、具体的な数値等について整理し報告する。